

腹腔鏡下スリーブ状胃切除術開始

生活習慣病改善に期待

北大病院II
消化器外科

北大病院(宝金清博院長・946床)の消化器外科IIは、生活習慣病を伴う肥満症に対する腹

腔鏡下スリーブ状胃切除術を道内で初めて開始した。内科治療抵抗性肥満症(BMI35以上)が対象で、胃の大半を切り取り、バナナ1本ほどの大きさにして食事摂取量を制限することにより、減量効果や糖尿病などの生活習慣病の改善が見込めるという。

肥満症や糖尿病に対するカナダで約15万件、中国では約4千件の外科手術が行われたが、日本は200件弱にとどまっているのが現状だ。

同切除術は2014年に保険収載され、糖尿病に対する新しい治療法として症例数の増加が予想されている。消化器外科学分野IIの平野聡教授は「これまで難治がんを中心に診療を行ってきたが、今回のような内科的疾患に対する外科的アプローチや、外傷外科に対する積極的な技術導入と外科医教育にも重点的に取り組み、本道における消化器外科の多様性を追求していきたい」と話している。

有用との報告が多い。スウェーデンで肥満症を対象とした前向きコホート研究では、手術群と非手術群(運動療法、食事療法など)の追跡調査の結果、観察13年目以降の累積死亡率に有意差が認められ、手術群では約30%低下していた。

2013年には米国・

手術は腹腔鏡で胃の小弯を約3cm残すように大弯側(スリーブ状)を切り離す。腹部には5〜10mmの傷が4カ所、手術時間は7時間、入院期間は約3週間、日間程度となる。保険診療

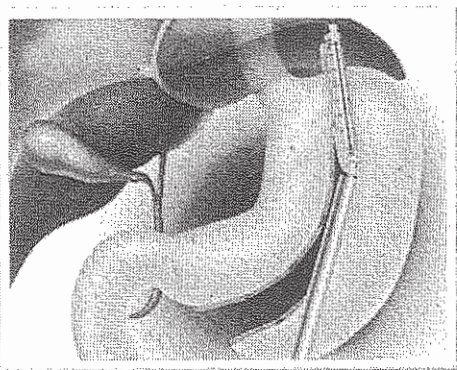
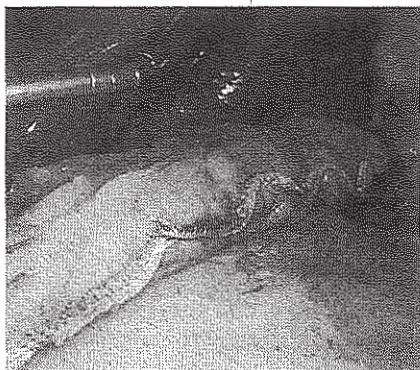
療で行えるが、同病院では施設認定取得のため10症例を病院負担で行っている。

2013年には米国・

手術は腹腔鏡で胃の小弯を約3cm残すように大弯側(スリーブ状)を切り離す。腹部には5〜10mmの傷が4カ所、手術時間は7時間、入院期間は約3週間、日間程度となる。保険診療

療で行えるが、同病院では施設認定取得のため10症例を病院負担で行っている。

道における消化器外科の多様性を追求していきたい」と話している。



胃の外側の部分を特殊な器械で切り取る